# 章毛通信



令和2年 6月11日 豊橋市文化財センター 豊橋市松葉町3丁目1 IL:0532-56-6060

No. 95

スルガテンナンショウ

## 1、2020年モニタリング報告ー1

葦毛湿原ではハルリンドウ、ミカワバイケイソウ、カザグルマ等の春の花が終わりました。いずれも開花数は増加しており、大規模植生回復作業の成果が表れてきていると思います。現在は、トウカイコモウセンゴケ、トキソウ、ノハナショウブ、クロミノニシゴ

リ、イソノキ、クチナシ等が順番に開花しています。

#### 1) ハルリンドウ

ハルリンドウの開花数は2015年から計測を始めました。2019年は計測できませんでしたが、全体として開花数は順調に増えています。右写真はM地点のハルリンドウの開花状況です。画面右側はネザサの群落で昨年の植生回復作業の時に手作業でササを刈り取り、日照を確保しました。ハルリンドウはこの中で開花しています。

画面左側は植生回復作業で、バックホーでコシダやネザサの根の層を除去したところです。右側のネザサの根があるところとは5cm程の段差があります。左側はチャートの礫が目立つ裸地になっていますが、裸地との境のネザサの根の断面には多くのハルリンドウが開花しています。

M-1実験区ではネザサの根の層を除去したところ、イヌノハナヒゲの群落になりましたが、3年ほどたってその中にハルリンドウが復活しました。





M地点のハルリンドウ(2020年4月19日)

ハルリンドウの最高開花数						
年度	観察日	最高開花数	増加率			
2015	4月18日	2,000 花	1.00			
2016	4月11日	6,475 花	3.24			
2017	4月19日	6,098 花	0.94			
2018	4月13日	9,584 花	1.57			
2019	未計測	9,584 花	1.00			
2020	4月14日	10,882 花	1.14			

\*2019年は2018年の数値を記入してある

画面左側の裸地に植物が再生し倒れて堆積することにより、M-1実験区と同様にハルリンドウが裸地側に進出して分布を広げていくと予想しています。

#### 2) ミカワバイケイソウ(愛知県絶滅危惧 | B類)

ミカワバイケイソウの開花数には ばらつきがあり、昨年は少ない年に あたりましたが、今年はこれまでで 最高の開花数を記録しました。ミカ ワバイケイソウの開花はほぼ隔年で 増減を繰り返しているようです。全 体としては増減を繰り返しながら着 実に増加していると思われます。

指定地内の開花数はほぼ横ばいですが、増加傾向にあることは間違いありません。国有林内は指定地内の

ミカワバイケイソウの最高開花数と自生数								
	国有林内		指定地内		全体			
年	最高	自生	最高	自生	最高	自生		
	開花数	数	開花数	数	開花数	数		
2015			12	808	12	808		
2016	318		83	758	401	758		
2017	86	639	52	611	138	1,250		
2018	252	1,400	71	687	323	2,087		
2019	116	2,249	126	689	242	2,947		
2020	526	2,188	123	858	649	3,046		

木を伐ることにより日照が大きく改善されました。また、自生数が増えることにより開花数も増え、今年は過去最高の526花が開花しました。

自生数は、株数ではなく茎の本数を計測しています。国有林内の自生数は一貫して増えていましたが、今年は微減となりました。しかし指定地内の自生数は増えており、全体としては微増の状態です。







国有林内のミカワバイケイソウ(遠景)

同近景(2020年4月30日)

#### 3)カザグルマ(愛知県絶滅危惧||類)

カザグルマの総開花数は2014年には8花だったものが、今年は306花にたり、ほぼ直線的に右肩上がりで増え続けて明して明るい森になったL地点で増えて増えています。発芽数は300個体以上あり多いのですが、花を咲かせるまでに成長する



年度	総開花数
2014	8
2015	62
2016	82
2017	175
2018	211
2019	264
2020	306

個体が少ないようです。茎が木質化すると開花するようで、林道沿いに木質化した個体が 見られるようになってきました。来年はさらに増えると予想しています。



B地点のカザグルマ(2020 年 5 月 11 日) カザグルマ地区別開花数

観察年	2017	2018	2019	2020
観察日	5/10	5/1	5/9	5/11
D.E.A		26	65	32
L	44	74	116	103
М	5	4	0	4
J	37	79	57	119
0			7	17
В	10	15	19	31
合計	96	198	264	306



B地点のカザグルマ(2020年5月11日)

カザグルマの計測は葦毛湿原調査員の古田雅章さんが継続して行っています。私が計測した各地点の数値(上表)を見ると総数では古田さんと一部で数値が異なっていますが、D・E・V地点では 2018 年の 26 花から 2019 年は 65 花になり、2020 年は 32 花に減少しました。ここは三の沢の下流部にあたりますが、他の植物が繁茂することによってカザグルマが衰退したところが見られました。間伐をしたL地点は明るくなることにより順調に開花数が増えましたが、2020 年は若干減少しています。これも間伐後植物が繁茂し日照が少し悪くなったことに関係するのかもしれません。 J・B地点では順調に開花数が増えており、特にJ地点では 2020 年に 119 花になり前年の 2 倍近くになりました。

### 2、ナガバノイシモチソウが発芽しました!

ナガバノイシモチソウは4月19日に初発芽を確認しました。右中写真は発芽状態の写真で大きさが2mm程度しかありません。十字形に双葉と補虫葉が出ています。

発芽数は第1地点で330個体、第3地点で23個体、第4地点で161個体の合計514個体でしたが、あまりに小さいため、双眼鏡で観察しています。自生地全体を詳細に調べられたわけではありませんが詳しく調べれば、1,000個体は軽く超えるだろうと思います。現在はまだ発芽が続いている状態で、おそらく発芽は7月頃まで続くと思われます。

第4地点のササの根を除去した 実験区では北側と南側の2か所で 発芽を確認しました。しかし、掘 り返して土が柔らかくなり保水力 が悪くなったためか実験区全体が やや乾燥気味で北側で発芽したも のの中には枯れてしまったものも 見られます。

しかし、下写真のように順調に 発育して小さな群落を形成してい るところもいくつも見られるよう になってきました。昨年は6月8 日に初開花しましたが、今年は若



自生地全景(2020年4月19日)



発芽状態(2020年4月19日)



現在のナガバノイシモチソウ(2020年6月5日)

干生育が遅れているようなので開花も遅れると予想しています。